

移動等円滑化評価会議東北分科会 意見交換会(宮城県)の開催について

意見交換会の概要及びご意見等について

1. 意見交換会の概要

- ・移動等円滑化評価会議東北分科会でご意見をいただいていた、「各県ごとの意見交換会」について、宮城県内の意見交換会を令和4年7月8日(金)に開催。(開催場所:東北運輸局会議室・Web会議併用で開催)
- ・宮城県内の障害者団体等の委員の他、行政のご担当者様にもご参加いただき、移動等円滑化に関するご意見や取組内容、好事例についてご報告いただいた。

2. 意見交換会での主なご意見等①

- ・最近、ニュースになっているが、「富士通やJR東日本、大日本印刷などは15日、駅のアナウンスや電車の音を文字で表示し聴覚障害者を支援する実証実験をJR上野駅(東京都台東区)で始めた。ホームで流れる音を「ガタンゴトン」「ビューウウン」といった擬音語に変換。アナウンスは内容に応じた書体・大きさを表す。」としている。実用化されたら宮城県でも設置されるのか。
- ・大きな駅ではホームドアの設置が進みつつあるが、まだまだ未設置の駅も多くある。特に島型のホームは、転落事故が起りやすい傾向があり、ハード面の整備のみならず、ソフト面の強化が大切である。たとえば周りの人の声がけが必要になるということ。白杖や盲導犬を連れた視覚障害者が、ホーム内で危ない場面を見たら、躊躇せず大きな声を出し、「盲導犬の人、危ない！！」や「白杖の人、危ない！！」等、短い言葉で端的に言う事が肝要である。どうぞ御協力をお願いしたい。
- ・昨年秋に、新千歳空港に出来た補助犬用トイレを視察した。実際にパートナーの盲導犬と使用し、使い勝手を確かめた。仙台空港はじめ東北各地の空港にもぜひ補助犬用トイレを設置して頂ければ有難い。ユニバーサルトイレの中に、補助犬トイレもあれば、なお使い勝手が向上するのではないか。
- ・都道府県単位の意見交換会を実現していただき、とても感謝している。他の県の方々とまったく環境が違う中で、それぞれの条件の中で意見がでて、それを集約し、もちろんすぐに解決できなくても意見を集約するだけでも今後のバリアフリー施策にいきてくると思うので、ぜひこういった機会を続けていただければありがたい。

2. 意見交換会での主なご意見等②

- ・障害者情報アクセシビリティコミュニケーション施策推進法を元に交通システムや建築物の基準だけではなく、様々な時に聴覚障害の方々も同じ内容を同じ時間で情報を共有することは非常に大事だと思う。多くの方々が出かけた、公共交通機関を利用したい、安全に安心してそれぞれの目的地で動きたいということだと思うので、この法律が施行されたことは大きな力になると思う。
- ・デマンドタクシーを利用している方から、荷物の量など制限がありなかなか利用ができない状況があるという話を伺った。自治体に相談したところ様々な制約があり改正は難しいとの回答だったが、状況を確認し改善することはできないのか。
- ・聴覚障害者のためのエレベーターで、閉まる直前にランプがついたり等、最近は目で見えてわかるようになってきているということを実感している。
- ・県の地域交通プランや市の都市交通プランで、デマンド交通というのが一つの柱になっていると思う。車椅子ユーザーとして気になることはデマンド交通で走らせる車両で福祉車両が走っている地域が少ないのではないかということ。一方で既存の路線バスは今まで法律のおかげもあってバリアフリーバスがどんどん増えているという状況である。デマンド交通でも福祉車両の運行ということを検討していただきたいと思っている。
- ・会員の皆様等向けに、日常的に使える交通システムをみんなで利用してみるという企画を行っている。最近、松島海岸駅にJRで出かける企画や、小岩井農場までリフト付きバスを使用した企画をした。特にリフト付きバスが少ないので、そのようなバスを使うと会員の皆様だけではなく、多くの皆様にご参加いただける。
- ・松島の観光船の丸文さんは昔から車椅子の方の利用がたくさんあり、車椅子のサポートはもちろんだが、特別支援学校の団体さんが来たときには船内のフロアを貸切にできたり、乗る方にあわせて色々な対応をされているという好事例がある。法律が変わって積極的にやっている事業者さんも増えてきていると思うので、色々な情報の発信の仕方があると思うが、ぜひ取組をご紹介していただきたい。